

北 余
野 生
武



ソフトバンク文庫

江苏工业学院图书馆
藏书章

北野 武
余 生

ソフトバンク文庫

NF

よ せい
余 生

2008年5月30日 初版第1刷発行

著者	きたの たけし 北野 武
発行者	新田光敏
発行所	ソフトバンク クリエイティブ株式会社 〒107-0052 東京都港区赤坂4-13-13 電話03-5549-1201（営業部）
印刷・製本	中央精版印刷株式会社
装丁・口絵	山本知香子
フォーマット・デザイン	モリサキデザイン
本文組版	谷 敦

落丁本、乱丁本は小社営業部にてお取り替えいたします。

定価は、カバーに記載されております。

本書に関するご質問は、小社ソフトバンク文庫編集部まで書面にてお願いいたします。

余生 目次

北野武、死を語る 5

鳥籠の中／母殺し／こわれた人形／慣れない幸せ／金曜日の自殺／感情嫌い／死の引力／無意識のバイク／懲りない頭

北野武、愛を語る 53

少年の頃／初体験／＼カミさん／非情の狂騒／唯一の恋愛／二人の横綱／母の感触

北野武、笑いを語る 91

笑われるのが嫌い／浅草へ／たけしと漫才／テレビ的芸人／漫才ブームの終焉／笑われることの疲れ

北野武、テレビを語る 137

視聴者・たけし少年／テレビへの移行／流れからの降り方／前進と後退／自分への鬱憤／テレビの規制／大暴れするために

北野武、映画を語る 177

映画の入り口／生理の方程式／記憶の底／初めての映画／プラモデル／妙な磁場／こわれもの／帰ってきた場所／お詫び／素人の匂い

北野武、死を語る

鳥籠の中

俺、死っていうものを意識しはじめたのはやっぱ大学生じゃないかなあ。

子供んときから大学ぐらいまで、やりたいことやった経験ないんだよね。結局、うちの親がすごい厳しいから、八つぐらいでも、子供んときの遊び、隠れてやってたもんね。常におふくろつてのがいて、マンガとか一切ダメでしょ？ で、隠れて読むと。だから、堂々と読んでる奴を見ると、あれやりたいと思うんだよね。堂々と野球の格好して家から出ていく奴見ると、あれやりたいなあってね。

そんで、まあ大学生になったときに、急に喉とかこのへんがね、なんか痛くなつてねえ。単に煙草の吸いすぎだと思うんだけど、「俺、ガンじゃねえかな」とか思いだしたりするんだよ。まだ好きなことも何もやってないのに死んでたまるかって、怖くてしょうがなくてさ。で、ノイローゼになってさ、俺。「死ぬな、これ」とか思つて。「何にも好きなことやらずに死ぬのかね」なんて思つて。したら今度は

開きなおって、くたばるってこと言いだして。そっからもう学校やめるんだよね、バカバカしいって。この先もねえのになんで大学出て就職しなきゃいけないんだって思ってたさ。

そして、何やろうか、ってなつてさ、一番いい「自殺」は浅草の芸人だと思ったわけ。あそこ、ロマンの保険があるから、浅草で売れない芸人のままアル中でくたばってく、なんてのは、実にその土地のロマンだと思って。で、「浅草でコメディアンだ」って行っちゃったの。そしたら確かにそういうのがいっぱいいるわけ、浅草に。要するに、売れなくて、でも浅草の芸人として死んでいくことが唯一の保険って人がいっぱいいるわけ。中入って、焼酎ばかり飲んでるのも、それもそれで心地いいんだけど、なかなかくたばらないから、これダメだなと思って、ちよつと先いきたいと思いだしたの。

だから大学までは、何やってたんだか分かんなかったんだよね。まあ、別におふくろを恨んでるわけじゃないけど。あのね、ストレートな人っているじゃない？ 素直に楽しんでる子供とか、酒飲んで素直に喜んでるオヤジ。あれになれないの。常に引いちゃうの。子供の頃からワーッと笑つてると、おふくろが出てきて、「そ

んなことしてんじゃない、下品だ」ってやられるわけ。「これ美味しい」って言うとかさ、普通に思ったことを表現することに対する下品さっていうのを言われるわけ。美味しいとかまずい言うんじゃない！」ってやられるから、もう常に、感覚っていうしたり口に出したりするんじゃないってので、ずーっと来ちゃったから、そのイライラがすごいあつて。でもそういうもんだと思ってるじゃない？ だから、たまに脳天気で面白い奴見ると、羨ましくてしょうがないけど、ああいうの絶対できないよね。俺はあの規制の中で生きてきちゃったから。

兄貴たちも、俺とおんなじ、そういう教育受けてきたわけだけどね、兄貴たちはストリートにそれを信じて生きてきたから。兄貴たちの頃はねえ、そのぐらいうちが貧しかったから考えなくてよかったわけ。だけど、俺んときになると、ちよっと収入が増えてきて余計なこと知りだしたんだよ。時代も時代で、兄貴たちの頃と違って、いろんな文化みたいなのがワーツと出てきたときに立ち会ってるから。よく考えりゃオリンピックピックがあつたり、ビートルズが来たり、なんかマンガでもドンと売れてくのが出たり、そういうのがワーツと出てきたときに、俺、相変わらずおふ

くろに怒られてるわけだから。それで楽しめないっていうかね、そういう感じはあったよね。

でも、まあ、俺はやっぱ兄貴とは全然違うよね。こわれてるっていうか、客観的になるときがすごく多いねえ。客観的になってゴマかしちゃってところがすごいあって。例えば、小学校のときに五、六人並ばされてビンタ食らってくんだけど、すごくおっかない先生で、隣の奴、三人目ぐらいは鼻血出てくるの。そんで、五人目は俺なんだけど「俺んとこ来る、俺んとこ来る」と思った瞬間にポンと抜けちゃって、「北野君殴られる」っていうような感覚になってるわけ。で、バーンとかって確かに痛いんだけどさ、「ああ、北野君、殴られて痛そうだね」って自分で言っちゃってんだよね。そういう感覚はすごいあった。

だから、すごい、みんなが絶対真剣なところあるじゃない、葬式とか結婚式とか、ケンカしてるとことか。そういうのバツと引いて見ちゃうから、笑ってしまうの。そういうの見つけんのはうまかったよね。やっぱりお笑いで逃げちゃうのが一番よかったんだね。だからその、結構俺、自虐的なところは強いかなあっていうかね。要するに、引き受けちゃうっていうかさ。ダメなこと引き受ける覚悟で対応しちゃう

から。そういうのじゃなくて、よくしなきゃいけないっていうふうな対応の仕方もあるんだろうけど、どっちがいいかっていったら五分五分だよ。どっち選ぶかで、俺、負け犬のほう選んでるってところあるね。だから、「どうせみんなくたばんじゃないかねえか」とかさ。そういうのはずーっとあったよね。悔しいとかい로운なことあんだけど、唯一の保険は「どうせ偉そうなこと言ってたって、くたばりやお前らだっておんなじだよ」っていうかね。大学でいい車乗って女連れて遊んでる奴ら羨ましくてしょうがないんだけど、「あの野郎、事故で死んじゃえー」ってね。「お前なんか！」と思うんだよね。

母殺し

で、大学やめたときは、やっぱりねえ、新宿のジャズ喫茶で「やめよう」って思ったんだけど、ジャズ喫茶から出てきたときの空の色が違うってのがね、ほんといいなあと思ってね。結局、大学行って勉強してサラリーマンにならなきゃいけない

ていうのは、とにかく兄貴たちがお前に学費出してやったとか、母ちゃんが内職してどうのこうのとか、もう全部しよってるからじゃない？　そこで親を殺したみたいなもんだよね、「やめた、こんなもん」って。だから、まあ、大学やめたってのは結構な自殺だったよねえ。

それは、やっぱりね、母殺しだと思うよ、家出と学校やめんのは。同時にやったんだけど、かなりちよつとね、こたえてね。結局何だろう、親子の愛情って俺んち、すごいひしひしと身近だったから。でも、いつまでも親いるわけじゃないし、やっぱり自分個人で生きていくことってのをやらないと。すごい人情がないんだけど、パツとこう親子の関係切らないと、自分で生きてけないわけだからね。どうしても頼ってしまおうしね。

だから、それを全部、パツとやめたっていう解放感はすごかったね。そんなときはそんな危機感みたいな気付いてないんだけどね。ちよつと後で考えたら、確かにやるわなあっていうようなテンションでいるんだよね。『フライデー』のときとかでも、やつぱみんなに後で聞くと『フライデー』のとき異常だったですよ」って言うから「なんで？」つつつたら「テンション違うもん」って。で、バイク事故の

前もやっぱり違ってたって言うんだね。それは自分で後で考えると、「ああそうだよな、あんなときはちよっとおかしいよね」って思うんだけど、そんなとき気が付いてないんだよね。だから全部結果で、「ああ、確かにあの時代おかしかった、俺」と思つて。ヤベエなあつて。ところが、あんまり怖くないんだよね。要するに、三回も自殺未遂してくれたばれなかつた奴は、こりゃあいいやつていうかね。バイク事故の後が一番こたえたけどね。

「うわあ、死んでるなあ、俺」って思つて。でも、「治んねえなあ」と思つたら治っちゃつてね。そんで、仕事が前以上に忙しくなっちゃつて、今一番忙しくなっちゃつて、「何だろうこれ、最低の事故起こして最悪の状態になつたときのほうが仕事がいいってどういふことなんだ」って。そうするとまた遭つてもだいじよぶだなつて思つて。

おそらく、やりたいことをワアワアワア遊んだ子にとっては、それがなくなることがすごく怖いんじゃないかな？ だから、子供は死ぬことがすごく怖いんだろうと思うんだよね。いろんな、自分なりに楽しめることがあるからさ。だけど、俺はあんまりそういうことねえから、別についていう感じだったね。くたばろうがっ

ていう。ただ普通の子供だったから、そんなに意識して死のうとは思わないけどさあ。だから逆に、大学のときに急に「死ぬのはイヤだ」って言いだしたのは、結局やりたいことを俺、一個もやってこなかったって感じがあったからだよね。身体がおかしいぞ、喉痛えとかあったら、「あれ？　ここにくたばったら俺最悪だ、やりたいこと一回もやったことないのに」って思ったの。で、またそんなときにねえちゃんもいないし、モテるわけじゃねえし、何にもないの。しょうがねえからアルバイトばっかしてたよね。

そいで俺は結局さ、死つてのに折り合いつけようっていうんで、哲学書を買ったりしたんだけど、全然読んだことないから、分からないの。実存主義が何かなんての全然分かんなくて。もうサルトルとか、コリン・ウィルソンとか、ボーヴォワールだとかカミュだとかいろいろ読んだんだけど、何にも分かんなくて、結局『次郎物語』とか『石狩平野』とか買ったりにして。最悪だよ。一応、小難しく考えりゃあさ、解決策があんじゃねえかなと思っただのにさ。二行読んだぐらいで、もう分からないの。全っ然分かんない。

宗教だって、あれがほんとなら、子供んときから、どうして差別があるんだって

のあったからね。生まれながらに不遇な、身体が悪い子と、普通の子とどう違うんだとか、神はどうだとか、そんなことばかり考えてた。どうもおかしいつつつてさ。だから宗教ってのは一部の人間、権力者が作ったものだとは思えないつつつと思つてたけどね。自分たちの都合のいいように宗教作つて、一般のかわいそうな人たちが騙してただけだつて、ずーつと思つてた。あやしいつつつて。

うちの下町のあたりはね、まああまり大きい声じゃ言えないけど、（創価）学会、（立正）佼成会、共産党、これの巢なんだよ。で、うちのおふくろ、佼成新聞、聖教新聞、赤旗取つてんだよ。何にも意味が分からないで「付き合いだから」って取つてんだよ。もう笑っちゃうんだから。連れてかれたことだつてあるよ、佼成会の本部。今、中野のほうにあるじゃん。俺、あそこにおふくろに連れてかれたような覚えがあんだ。俺があんまり悪くて言うこと聞かないっていうんで、五人か六人のおばさんが集まつて、悩み事をみんなでワアワア言つてやつてるんだけど、それに俺、座らされたような記憶があんだ。で、うちの母ちゃん、そういうの行つてたんだよ、ずつと。俺が言うこと聞かないから。どこでも行っちゃうんだよ。天理教も行つてたもん。だけど、そのくせ結構冷めててさ、インチキだとか言うんだよね。